

桑名市における 「アセットマネジメント」の取り組みについて

(特非) シビル NPO 連携プラットフォームサポーター

桑名市長 伊藤 徳宇



桑名市は、三重県の北部、名古屋市の中心部から約 25 kmの圏内に位置する人口約 14 万人、面積は 136.68 km² の都市です。

伊勢湾へと流れる木曾川・長良川・揖斐川の三大河川の最下流部にあり、これらの河川に沿って広がる平野部や、養老山地から連なる多度山など、水と緑豊かな、恵まれた自然環境のもと発展をしてきました。

本市は、近鉄名古屋線とJR関西本線が並行して走り、桑名駅を基点として、岐阜県大垣市へつながる養老鉄道や、いなべ市へつながる三岐鉄道北勢線といった鉄道があり、地域の公共交通の拠点としての役割を担っているとともに、東名阪自動車道や伊勢湾岸自動車道、国道1号、23号、258号などの広域幹線道路が市内を通過しており、インターチェンジが5か所あります。このように地理的優位性が高く、全国各地からもアクセスがしやすい交通・交流拠点となっております。

また、三大都市圏を中心とする人口急増に対応するため、昭和40年代後半から、市の西部丘陵大山田地区の大規模な土地区画整理事業等により、ニュータウン住宅地が整備されてきました。しかしながら、近年における本格的な少子高齢・人口減少社会の進行は、ニュータウンにおいて顕在化しつつあり、さらに計画的に整備されたインフラの老朽化が一斉に進行し、その維持管理が費用面・人材面ともに大きな課題となってきました。特に街路樹については、「自然環境との共存」、「みどり豊かなまち」を分譲コンセプトに約5,000本の樹木が配置されており、植樹から数十年が経過するなか、巨樹古木に生長しており、秋冬期における大量の落葉や「根上がり」による植栽柵・歩道の損壊などが生じており、維持管理費は年間で約62,000千円にも及んでおります。



【秋期に発生する落葉】



【街路樹の成長に伴う植栽柵の破損】



このような状況の中、本市においては平成28年度より、大山田ニュータウンをモデル地域とし、道路施設の長期的な維持管理、更新を行うためのマネジメントシステムを構築する研究事業として、公益社団法人土木学会技術推進機構が実施するアセットマネジメントモデル事業のご支援を頂き、街路樹維持管理の適正化に向け、「将来のまちづくりに対応するサービス需給の適正化」、「ステークホルダーの役割再編」、「社会実装に向けた方策及びその適用手順」を明確にすることを目標に住民協議会を開催しております。地域の発展経緯や当時のまちづくりコンセプト、人口構造と推移を整理し、「良好な住宅地としての課題」を浮き彫りにするとともに街路樹の緒元情報や維持管理（予算・方法・頻度等）の実績、地域住民からの苦情と対応状況に関する特性を分析しつつ、現状の維持管理に対する地域住民の評価（景観の維持・住民協働）を明らかにしてきました。その結果、公園、学校及び法面緑地と重複している区間における街路樹の間引き、下枝の剪定と植栽柵除草等は地域住民で上枝の剪定、車道側の低木管理は市で行う等、行政と地域住民との役割分担が進んでおります。



今後は、地域住民が主体となって造園事業者やまちづくりの専門家等を「アドバイザー」に加えた「地域プラットフォーム」を形成することにより、地域の主体的な取り組みによって街路樹維持管理の適正化が進むことが期待されるとともに、地域で生活する人たちや地域の各種団体が、それぞれの持つ知識や経験、情報やネットワークの共有化を図り、地域が本当に望む“まち”の実現を目指す、本市の地域コミュニティ施策【地域創造プロジェクト（案）】と一体的に進めることで、市民と行政のパートナーシップをより強固なものへと発展させ、持続可能な地域のまちづくりへとつなげていきたいと思っております。

また、本市におきましては、社会的課題、地域課題の解決を目指し、民間事業者等と行政の対話により連携を深め、互いの知恵とノウハウを結集して新たな解決方法、新たな価値を創出する公民連携ワンストップ窓口「コラボ・ラボ桑名」を設置しております。

様々な分野において、ユニークな発想やアイデアによるご提案をお待ちしておりますので、よろしくお願いたします。

様々な分野において、ユニークな発想やアイデアによるご提案をお待ちしておりますので、よろしくお願いたします。

